

群馬県

定数：5名

立候補者数：5名



氏名 渡辺 真樹
氏名ふりがな わたなべ まさき
都道府県士会 群馬県
年齢 53
勤務先名称 公立七日市病院

日本理学療法協会活動歴

公益社団法人日本理学療法士協会代議員
平成30年4月1日～現在（4期8年）
公益社団法人日本理学療法士協会倫理委員会委員
令和7年度～（1期1年目）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

一般社団法人群馬県理学療法士協会
事務局部員：平成9年度～平成18年度（10年）
事務局総務部長：平成19年度～平成28年度（10年）
理事：平成29年度～現在
（事務局長3期6年、会長2期3年目）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

公益社団法人日本理学療法士協会議員選挙にあたり、私はこれまでの経験を、これからの時代を担う理学療法士へ確実につないでいきたいとの思いから、5期目の立候補を決意いたしました。

理学療法士として29年の臨床経験を重ね、群馬県理学療法士協会会長を2期3年目を務めるとともに、日本理学療法士協会の代議員として4期8年にわたり活動してまいりました。その中で、キャリアの初期から中堅期にある理学療法士が将来に不安を抱えながら働いている現状や、経験年数や所属による情報・機会の格差を強く感じています。

これからの協会には、安心して成長できる環境づくりと、臨床の現場で培われた知見を世代を超えて共有する仕組みが不可欠です。教育・研修の充実はもとより、多様な立場の声が協会運営に反映される開かれた組織であることが重要だと考えています。

これまで培ってきた経験と全国・地域のネットワークを生かし、次の世代からベテランまで、すべての会員が将来に希望を持てる協会づくりに尽力してまいります。皆さまのご理解とご支援を、心よりお願い申し上げます。



氏名 中川 和昌
氏名ふりがな なかがわかずまさ
都道府県士会 群馬県
年齢 46
勤務先名称 高崎健康福祉大学

日本理学療法協会活動歴

令和3年6月～ 日本理学療法士協会 スポーツ理学療法の全国展開・推進運営部会 部
会員（～令和5年3月）
令和4年4月～ 日本理学療法士協会「OSCE標準化検討部会」 部会員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成25年4月～ 群馬県理学療法士協会 研修部（～平成30年3月まで）
平成31年4月～ 群馬県理学療法士協会 職能局スポーツ推進部
令和6年4月～ 群馬県理学療法士協会 評議員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

令和3年8月～ 日本スポーツ理学療法学会 理事（～現在）
令和4年7月～ 日本スポーツ理学療法学会常設委員 理学療法標準化検討委員会 委員
長
令和5年4月～ 日本理学療法教育学会 学術事業委員会 委員
令和7年6月～ 日本理学療法教育学会 評議員

立候補の趣旨

この度、日本理学療法士協会代議員に立候補いたしました中川和昌です。
現在、大学にて理学療法学科の教員として勤務する傍ら、臨床現場においてスポーツ理学療法に従事するとともに、小・中学校での学校保健活動や地域住民の健康増進にも携わってまいりました。
これらの活動を通じ、スポーツ理学療法の可能性を多方面から広げていくことは私の使命であると考えています。また、理学療法教育は発展途上にあり、全人的アプローチを重視しながら、教育学的・学術的發展を進めることが不可欠です。教育現場に関わる立場として、質の高い教育環境と教育内容の充実にも取り組む必要性を強く感じています。
前期に評議員を務め、日本理学療法士協会および県士会の役割への理解を深めてまいりました。社会の変化を踏まえ、専門分野にとどまらず、対象者に寄り添う理学療法士の価値を次世代へとつなぐため、他職種との協働や国際的動向にも目を向けながら、県の代表として責任ある活動を行ってまいります。引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



氏名 樋口 大輔
氏名ふりがな ひぐちだいすけ
都道府県士会 群馬県
年齢 45
勤務先名称 高崎健康福祉大学

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2017年～現在：群馬県理学療法士協会 理事
2017～20年：第38回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員会 事務局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2025年～現在：一般社団法人日本地域理学療法学会 評議員
2022年～現在：日本理学療法学会連合 学術誌「理学療法学」「PTR」編集委員
2019～20年：第7回日本予防理学療法学会学術大会準備委員会 総務部長

立候補の趣旨

私はこれまで、群馬県理学療法士協会の理事・事務局長として、県士会の組織運営の職を務め、県士会の実務と職能活動に関わってまいりました。代議員は、日本理学療法士協会の総会において議題を討議し、決議を行うことで適切な運営に寄与する極めて重要な役割を担っています。組織率の低下など日本理学療法士協会が職能団体として大きな転換期を迎える中、県士会の実情を知る者として、以下の3点について重点的に取り組みます。

1. 日本理学療法士協会と県士会との強固な橋渡し：県士会の事務局長として培った組織運営の知見を活かし、日本理学療法士協会と県士会をつなぐ役割を担います。日本理学療法士協会の決定事項を県士会へ浸透させるだけでなく、県士会が直面している実情や会員の切実な意見を、代議員としての討議を通じて日本理学療法士協会の組織運営へ反映させるべく活動します。
2. エビデンスに基づいた職能施策の推進と処遇改善：学会連合での活動経験を活かし、学術的根拠に裏打ちされた職能活動を支援します。理学療法士の専門性が診療報酬・介護報酬において正しく評価され、すべての会員が誇りを持って臨床・教育・研究に励むことができる職場環境が整備されるように後押しします。
3. 総会での厳格な審議による健全な協会運営への貢献：都道府県選出の代表として、総会における議題を多角的に検証し、協会の適切な運営と会員の利益保護に寄与します。地域包括ケアシステムや疾病予防における職域拡大を推進するとともに、会員一人ひとりが「協会運営の当事者」という意識を共有できる体制づくりに尽力します。

私のこれまでに臨床・教育／研究・職能活動の経験を生かし、日本理学療法士協会の健全な組織運営に貢献します。



氏名 小保方 祐貴
氏名ふりがな おぼかた ゆうき
都道府県士会 群馬県
年齢 39
勤務先名称 東前橋整形外科病院

日本理学療法協会活動歴

令和6年～現在 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成30年～令和7年 スポーツ推進部 部員
令和2年～令和7年 代議員
令和7年～現在 理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

令和7年～現在 日本理学療法管理学会 評議員

立候補の趣旨

この度、任期満了に伴う代議員選挙にあたり、再度立候補いたしました小保方祐貴と申します。

前回の任期では、総会において新生涯学習制度をはじめとした各事業への提案をさせていただきました。これらの経験を踏まえ、今回の任期では次の2点を重点に活動していきたいと考え、再度立候補を決意いたしました。

① 生涯学習制度について

制度の複雑さや費用負担に加え、取得する意義やメリットが現場で実感されにくい現状があると考えています。本来、登録理学療法士や認定・専門理学療法士は、理学療法士の専門性を可視化し、誇りをもって協会内外で活動するための基盤となるべきものです。取得や更新が負担として受け止められるのではなく、協会内での役割や評価と結びつく制度となるよう、取得・更新ポリシーの見直しや協会内評価の在り方について、取得意義が明確に伝わる制度への改善を提言していきたいと考えています。

② 職域拡大について

学校保健、産後ケア、予防・健康増進など、理学療法士の活躍の場は年々広がっていますが、現場では個々の努力や人脈に依存している場面も少なくありません。新たな領域への参入ハードルを下げるべく、協会が研修体系の整理や情報の集約・発信、制度的整理を行うことが重要です。理学療法士の社会的価値向上につながる、実効性のある職域拡大の在り方について、現場の視点から訴えていきたいと考えています。

前回任期で得た経験を活かし、現場と制度をつなぐ代議員として、引き続き誠実にその責務を果たしてまいります。何卒ご理解とご支援の程よろしくお願い申し上げます。



氏名 水野 剛
氏名ふりがな みずの たけし
都道府県士会 群馬県
年齢 47
勤務先名称 前橋赤十字病院

日本理学療法協会活動歴

なし

都道府県理学療法士（協）会活動歴

令和2年度～令和3年度
令和4年度～令和5年度
令和6年度～令和7年度 代議員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

なし

立候補の趣旨

私はこれまで超急性期医療の現場において、早期離床、重症化予防、ICUリハビリテーションを中心とした急性期医療の要となる理学療法業務に従事してきました。超急性期は、患者が生命の危機から回復へと移行する最も重要な時間であり、医師の指示やチーム医療の中で、理学療法士の迅速かつ適切な判断、多職種との連携、医療安全に基づく介入が予後に直結します。こうした現場経験を通じて、理学療法士が果たすべき役割の大きさと専門性の高さを強く実感してきました。

一方で、診療報酬改定は超急性期リハ提供体制に直接影響を与え、算定要件や評価の変化がICU・HCU・救急病棟、急性期一般病棟での介入量、スタッフ配置、さらには理学療法士の雇用環境にも大きく関わります。現場では、制度変更に伴い業務フローの再構築や人員再配置を迫られ、安定した早期介入の提供が難しくなる場面も少なくありません。重症化予防や離床促進などの根幹業務を継続するためには、制度理解と職能団体としての発信、そして雇用・教育の両面からの支援が不可欠であると強く感じています。

だからこそ私は、代議員として次の点に取り組むべきだと考え、立候補を決意いたしました。第一に、超急性期リハの価値を明確に示し、診療報酬上の評価向上へ向けた提案を行うこと。第二に、早期離床・ICUリハを安定して実施できる雇用環境と適正人員配置を推進すること。第三に、制度改定と現場の乖離を埋めるため、会員への情報提供や教育体制を強化することです。今現在は、管理職として組織運営・人材育成に携わってきた経験を生かし、現場の声を正確に協会運営へ届け、理学療法士が専門性を最大限に発揮できる環境づくりに貢献してまいります。